

「被爆77周年 2022 平和行動 in 広島・長崎北海道統一代表団」を派遣

原子爆弾が投下されて77年目を迎える中、
連合北海道・原水禁北海道・北海道友愛KAKK
KINは8月4日～9日の日程で、参加者83
名を「北海道統一代表団」として広島・長崎に
派遣した。



8月5日の平和ヒロシマ集会で主催者挨拶に
たった連合本部芳野友子会長は、ロシアのプーチン
大統領はウクライナの軍事侵攻において脅しとして
核兵器の使用を示唆する発言を行い、北朝鮮は今年
に入りすでに16発にもわたりミサイル発射を強行
していることや、中国が発射した弾道ミサイルが日



本の排他的経済水域に落下したことについて触れ、「広島・長崎の日が目前に迫る中、断じて
許される行為ではない」と述べた。また、現在開催されているNPT再検討会議については「世
界で唯一の被爆国である日本は、核兵器保有国と非保有国の橋渡し役を自認するのであれば核
兵器の非人道性を伝え核兵器禁止条約の批准とNPT再検討会議の議論をリードすることを両
輪として核兵器廃絶に向けた取り組みを進めるべき」と政府に対し求めた。そして「本日ご参
加の平和団体や志を同じくする皆様とともに、国際的な運動をけん引していかなければならな
い。私たち連合は、平和首長会議やITUCとも連帯・連携し、国内外の世論喚起に向けて、
活動を一層強化していく。」と述べ、改めて核兵器廃絶、そして世界の恒久平和の実現に向け、
取り組みを進めていく決意を示した。

続く、8月8日の平和ナガサキ集会では、連合本部清水秀行事務局長が主催者挨拶にたち、



核保有国による核軍縮が一向に進まない現状下で、昨年1月
には核兵器を全面的に禁止する核兵器禁止条約が発効された
ことに触れ「世界の核兵器廃絶を求める強い意思が結実した
ものであり、核兵器保有国をはじめ国際社会全体はこのこと

を重く受け止めなければならない」と訴えた。

また、「今、世界が、平和への歩みを、続けることができるか否かを問われている。私たち一人ひとりが、改めて戦争の実相を学んだ上で、本日まで参加の平和団体や志を同じくする皆様とともに、国際的な運動をけん引していかなければならない。」と述べた。



続いて、「若者からのメッセージ」として、第25代高校生平和大使10名を紹介。連合北海道と退職者連合で構成する北海道高校生平和大使派遣実行委員会で選出した、猪俣愛紗美さんと齊藤あかりさんと吉田桜さんも核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす強い思いを胸に秘め仲間とともに登壇した。



また、ピースフラッグリレーとして、連合長崎から連合北海道・根室集会へと平和の思いとともに旗を引き継いだ。旗を受け取った連合北海道千葉利裕副会長は「わたしたちは安易な軍拡競争や核抑止論に与することなく、

凄惨な地上戦を経験しそして世界で唯一戦争被爆を受けた国として、平和への願いをしっかりと引き継ぎ、そして訴える集会をしていきたいと考えている。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます」と述べた。



参加者はこれらの集会を通し、戦争の実相、原爆の脅威を学び、平和の実現のため、これを語り継いでいかなければならない責務があることを強く感じた。

統一代表団は広島・長崎においてピース・ウォークに参加するなど、それぞれ学習を深めるとともに、広島では原爆死没者慰霊碑への献花を、長崎では被爆地「淵中学校」への遺跡慰霊を行った。また、連合北海道独自行動として、鹿児島県の知覧特攻平和会館への見学も行った。

連合北海道はこれからも核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、職場や地域における核兵器廃絶運動に粘り強く取り組んでいく。